

## 中学生の飲酒実態調査とアルコール薬物教育

長野県長野市立広徳中学校 宮下 清子

### 1、はじめに

本校は長野県長野市の南部に位置し、全校生徒577名の中学校です。開校14年目を迎え長野市でも新設校として一番新しい学校です。近くには10年前に行われた冬季長野オリンピックの開閉会式場や選手村として使われていた所が団地となったり、オリンピック道路が開かれ、大型店舗も増え都市化している。

### 2、中学生の飲酒実態(本校平成19年9月全校飲酒実態調査より 欠席者は除く)

・本調査は平成20年1月に行われた飲酒防止教育の前に調査を実施したものである。

(1) 回答者数男子283人・女子256人 合計539人

#### (2) 結果

①飲酒経験は「一度も飲んだことがない」が約半数を占めるが、残りの半数は「冠婚葬祭」や「家族との食事の時」である。初めての飲酒学年は小学生からの飲酒経験が多く、飲酒経験や飲酒時期から考えて児童・生徒が自ら飲酒したとは考えにくく、周囲にいた大人の飲酒に対する認識の甘さが反映していると思われる。そのため、小学生の早い時期からの飲酒防止教育が必要と思われる。

②習慣飲酒状況では、習慣飲酒をしている者が各学年とも若干名いる事がわかった。

③酒の主な入手先は「家族から」が一番多く、続いて「家にあるお酒を飲む」現在、飲食店やコンビニを含む酒販売店には、「未成年者への酒の販売はしません」「販売の際年齢を確認します」などの表示がされており、未成年者が購入できないシステムになっている。また、最新の自動販売機では免許証を入れないと購入できないようになっている。世の中の動向から、酒造会社も未成年者の飲酒問題に取り組んでいる現れであり、大人が未成年者の飲酒問題を正しく理解し、社会全体で取り組んでいく事が大事である。

④両親からの飲酒の勧めについては「いいえ」と答えた者が多いが、飲酒経験の値が高い「冠婚葬祭」「食事の時」など、親が近くいる状況で飲酒がされていることが考えられ、健康面への影響や社会的ルールを守るという観点で、今後家庭での飲酒防止のための教育も必要と思われます。

⑤お酒を飲むことは体に害があるか。では、「害がある」とわかっているが、中には「適量ならかえって健康によい」と思っている者も多い。未成年者の飲酒で大きな影響がある「脳への影響・脳がちぢむ」と思っている者は少なく、脳への影響も含め未成年者の飲酒の健康問題や社会問題など幅広い知識により、自らの健康への意識を高めていく働きも必要であります。

⑥家族の飲酒状況と本人の飲酒状況との関連では家族の方が「ほとんど毎日飲む」「たまに飲む」家庭の子供たちは常にお酒が近くにあるということから未成年であっても本人が習慣飲酒する傾向が多いように思う。

### 3、広徳中学校における薬物乱用防止教育

目的 「薬物の低年齢化や広範化に対し、中高生を対象とした手口や、激しい副作用の実態を知り、長野県内での被害事例や更正課程での青少年の状況などを聞くことを通して、身近に迫る薬物乱用に対し、自ら守ろうとする意識を高める。」

取り組みと今後の方向

平成 19 年 9 月 飲酒実態調査に関するアンケート(全校生徒対象)

10 月 全職員による飲酒防止教育(職員研修会)

久里浜アルコール症センターから久富暢子先生を講師に迎え、専門家の立場から若者のアルコール関連問題などの講義

平成 20 年 1 月 生徒を対象にした「薬物乱用防止教室(飲酒防止教育)」の実施

久里浜アルコール症センターから久富暢子先生を講師に迎え、「未成年者のアルコールの影響」をテーマにアルコール摂取によって、体の中ではどのような変化が起こるのか、若者が摂取することの影響は何か。といことについて講演

平成 21 年 1 月 エタノールパッチテスト(予定)

薬物乱用防止教室から(飲酒防止教育) <生徒の感想>

- 子供がお酒を飲んではいけなかなんて考えたこともなくて、飲まないのが当たり前だと思ったけど、子供がお酒を飲んではいけない理由がこんなにも沢山あるとは思いませんでした。今の期に飲むと脳に大きなダメージを与えてしまうからです。今は脳を発達させる時期なので、そんなことをすると脳の老化が早まるそうです。成長の妨げになるなんてビックリです。
- 脳の神経細胞を破壊するという、お酒を飲んでいる人と正常な人の脳では脳の大きさも変わってしまう。お酒を今から飲んでいると脳が正常に発達しなくなると聞いて驚いた。
- お正月とか大人から誘われてもちゃんと断れるようにしたいです。
- 大人になってから何かとお酒のつきあいはあると思うから、量や種類などちゃんと見て、飲み過ぎることのないように気をつけていきたいと思った。

### 4、おわりに

今回久富先生との出会いからきのような機会を与えていただき、大変勉強させていただきました。まだまだ本校では始まったばかりの飲酒防止教育です。生涯を通じて健康な生活を送ることができるような能力を育成するためのライフスキル学習を取り入れたり、親の意見や影響が大きいことから親子での飲酒防止教育を実施するなど家庭教育との連携を図っていきたい。